

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	声優演技Ⅱ	
開設学科	声優・演劇科		コース名	声優コース		開設期	後期
対象年次	2年次		科目区分	選択		時間数	70時間
単位数	2単位		授業形態	実習			
教科書/教材	使用する台本はその都度配布する。						
担当教員情報							
担当教員	千葉繁			実務経験の有無・職種	有・声優　俳優　演出家		
学習目的							
この科目を受講する学生は、前期の「声優演技Ⅰ」で学んだ『プロの俳優・声優』になるには近道などではなく、真摯な心で一つ一つ経験を重ねて行くことがいかに大事なのかをさらに追及し、細胞に染み込ませてゆく。どんな仕事でも同じだが、『プロ』としてやって行くにはそれ相応の『責任』が伴うことを理解する。声優演技Ⅱでは体を使った表現に特化し、役者に必要な表現、協調性、責任感、真摯な努力をさらに身に付ける事を目的とする。							
到達目標							
卒業制作で実施する卒業公演に向けて、表現の基礎を固めていくことを目標とする。この科目を受講する学生は基本的には前期に学んだ夏の成果発表やマイク前の授業などで経験した事を活かしていき、そして『卒業後』を見据え、一つ一つの課題に愚直に挑戦し研鑽を重ねて行く。本読みで、自ら想像を膨らませ、役柄を深められるように模索していく。それを立体的な表現に結びつける。荒立ち稽古では自分の表現したい世界観、役柄の矛盾点に自ら気が付けるようにしていく。演出と学生の考えた芝居を融合させ、作品の面白さを深めていくのが目標である。							
教育方法等							
授業概要	『実践あるのみ!』を掲げ、芝居を学ぶ事により個々人の中に渦巻くエゴを真摯に見つめる一助となればと考える。そして自分の目指す役者の世界は、俯瞰的な視点で人間社会を見て、その問題点（事件や争いなど）がどのようなエゴによって起こっているのかを舞台や映像作品などを通じて表現し、観客とともにより良き社会を模索して行く役割があるのだ、という事を学生と共に考える授業にしたいと思う。						
注意点	授業態度（特に居眠りや私語）に関してはかなり厳しく対応する。また、公演の本番体制（通し稽古）に入ってから連絡のない遅刻・欠席に関しては最悪、役を降りてもらう可能性がある。後期の授業内では本番日が無いため、成績の評価方法は毎回の授業を成果発表とし、前回の授業からの伸び率を評価に組み込む。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することはできない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・成果発表	50%	舞台発表に向けての積み重ねができているか、前回からの伸び率によって評価する。				
	平常点	50%	真剣に授業に向き合っているか、積極的な授業参加度によって評価する。				
授業計画（1回～10回）							
回	授業内容		各回の到達目標				
1回	本読み1		台本に書かれている言葉を読み解き、それを役柄としていかに表現するかを探る。				
2回	本読み2		台本に書かれている言葉を読み解き、それを役柄としていかに表現するかを探る。				
3回	成果発表用台本の基礎稽古（1）		本読みで理解した自分の役（役割）を実際に肉体を使って表現し、自分ではなく他人の人生を生きる事を学ぶ。				
4回	成果発表用台本の基礎稽古（2）		自分の役（役割）を実際に肉体を使って表現し、自分ではなく他人の人生を生きる事を学ぶ。				
5回	成果発表用台本の基礎稽古（3）		自分の役（役割）を実際に肉体を使って表現し、自分ではなく他人の人生を生きる事を学ぶ。				
6回	成果発表用台本の応用稽古（1）		現在表現している、または表現したいと思っている演技の矛盾点を徹底的に洗い出し、表現の精度を高めて行く。				
7回	成果発表用台本の応用稽古（2）		現在表現している、または表現したいと思っている演技の矛盾点を徹底的に洗い出し、表現の精度を高めて行く。				
8回	成果発表用台本の応用稽古（3）		音響などを加え、全体の流れの中で問題点を洗い出して行く。				
9回	成果発表用台本の応用稽古（4）		音響などを加え、全体の流れの中で問題点を洗い出して行く。				
10回	成果発表用台本の応用稽古（5）		それぞれのシーンの理解を踏まえ創り上げ、卒業制作と繋げる				